

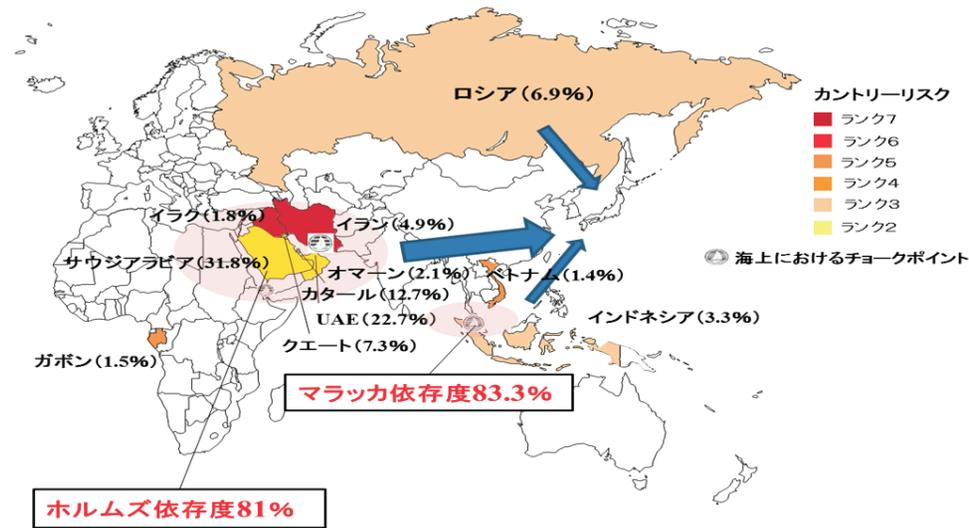
エネルギー白書からシリーズ「我が国が抱える構造的問題」

4 我が国へのエネルギー供給ルート上のチョークポイント（要衝）

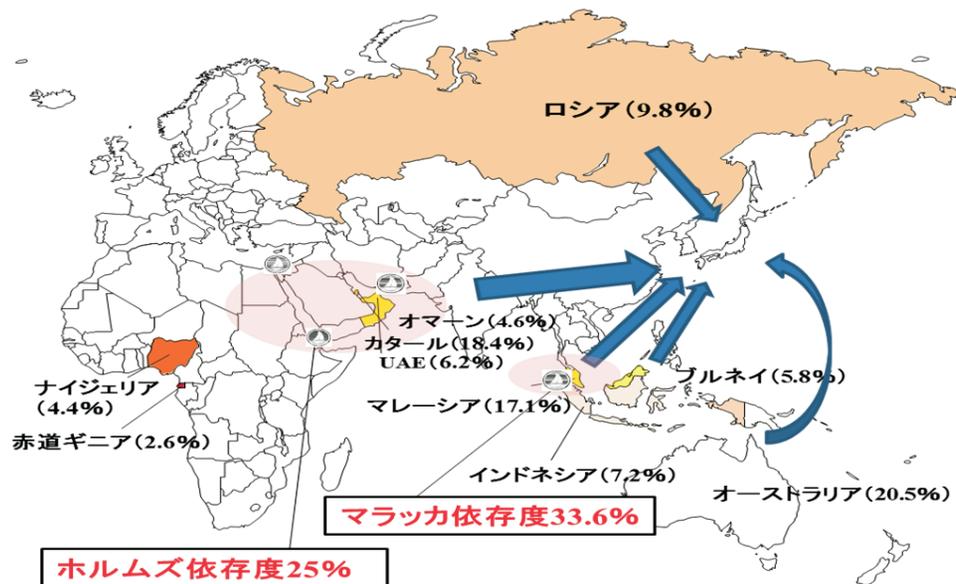
日本は、船(タンカー等)で燃料を輸入しなければなりません。そのため、燃料の安定供給を図るうえで、シーレーンの安全保障など大きなリスクを抱えているといえます。

我が国への供給ルート上のチョークポイントの現状

【原油（2013年）】



【天然ガス（2013年）】



(注) マラッカ依存度はマラッカ海峡以西の輸出主要国の率の積み上げ。1%以上の国を記載。
なお、OECD 域内高所得国やユーロ圏内高所得国は評価・分類なし。
出典：財務省「貿易統計」、OECD「Country Risk Classification」等を基に作成

また、中東からの供給に依存する原油やLNGの海上輸送の過程で、ホルムズ海峡やマラッカ海峡など「海峡」「運河」などの要衝（チョークポイント）を通過せざるを得ず、これらの地域で何らかの緊急事態が発生した際には、我が国のエネルギー供給上の課題が顕在化し得る、いわば脆弱な供給構造となっています。